

～遺伝子組み換え学習会終了後のアンケートで寄せられた質問～

Q1. 農薬問題、ゲノム編集、遺伝子組み換え沢山ありますが、それらが表示されなくなったら消費者はどう判断したらよいのでしょうか？見分け方はありますか？

食品表示は、消費者が食品について知るための唯一の方法です。もちろん自給していれば別ですが、ほとんどの人が、食品を買わざるを得ないのです。そのため表示されないと、基本的に見分け方はありません。消費者には知る権利、選ぶ権利があるのです。表示させることが大切です。

Q2. 食パンからグリホサートが検出されるということは、小麦製品全般がそうだということになりますか？

輸入小麦が汚染されているのです。国産小麦は汚染されていません。そのため輸入小麦を用いて製造された麺やお菓子なども汚染されています。ぜひ国産小麦を用いた製品を購入してください。

**Q3. アンパは残留するとのことですが、そのデータはありますか？
グリホサートは分解が早いのにアンパは影響が出るのですか？**

AMPA の残留性と毒性については、環境脳神経科学情報センターの木村・黒田純子先生が多数の資料を提示されています。また AMPA の毒性については、土壌微生物で代謝異常をもたらしたり、ミミズでは死亡率が高くなるなどの研究があります。詳しくは私が書いたブックレット「グリホサート身近な除草剤にひそむ危険」を読んでください。グリーンコープでも取り扱います。

Q4. マウスの飼料の実験でGMO飼料などを与えたマウスの寿命が短くなるのお話でしたが、どれくらい短くなるのですか？また、GMO、GMO+R、Rでそれぞれどのくらいの違いがあったのか知りたいです。

動物実験はとても厳密です。それぞれ 10 匹ずつ、計 200 匹を使っています。以下が実験の結果です。なお最近では、アニマルウェルフェアに配慮して、癌の大きさが体重の 25%を上回ったり、25%以上体重が減少した場合、安楽死させており、それも含めます。()内の数字がその安楽死させたケースです。早期死亡とは、寿命に達しないで死亡したケースです。大事なことは対照群との比較です。この結果を見ると、雌での死亡率が高く、低濃度での早期死亡が多いことに気が付かれると思います。それがとても大切なことなのです。

1、ラウンドアップのみ

低濃度(0.1ppb) 雄3(1) 雌5(5)

中濃度(0.09%) 雄4(2) 雌5(5)

高濃度(0.5%) 雄1 雌4(4)

2、GMトウモロコシ

全飼料中 11%が GM 雄5(1) 雌3(1)

全飼料中 22%が GM 雄1 雌7(6)

全飼料中 33%が GM 雄1(1) 雌4(4)

3、GMトウモロコシ+ラウンドアップ

(ラウンドアップは低濃度、中濃度、高濃度を 1 週間ごとに交換して与えた)

全飼料中 11%が GM 雄4(1) 雌4(3)

全飼料中 22%が GM 雄5(3) 雌7(6)

全飼料中 33%が GM 雄1 雌4(3)

非 GMトウモロコシ(対照群) 雄3 雌2(2)

Q5. 輸入された遺伝子組み換えナタネが国内のナタネ科植物と交配して広がりやすいというお話でしたが、ゲノム編集された魚も自然界で交配して広がっていくという懸念はありますか？

もちろんあります。遺伝子組み換えサケ(アトランティック・サーモン)を用いたシミュレーションがあるのですが、それによると世代を重ねていくと、20 数世代でアトランティック・サーモンが絶滅するということです。

Q6. インポッシブルバーガーとはどのようなものですか？

インポッシブルフーズ社が開発した大豆を用いたハンバーガーです。同社は、意図的に遺伝子組み換え大豆を用い、さらに大豆に含まれるレゲモグロビンというたんぱく質で、牛肉での血液成分にあたるものを開発しました。それらが安全に問題を起こしています。米国や香港などのハンバーガー店で用いられています。詳しくは、私が書いたブックレット「フードテックー未来食？それともジャンクフード？」を見てください。グリーンコープでも取り扱っていますので。

**Q7. 収穫前の小麦に農薬(枯葉剤)を散布したら、なぜ収穫しやすくなるのですか？
実だけが残って葉だけが枯れるのですか？**

米国やカナダなどは、広い農地で栽培するため、栽培した場所により収穫に適した時期がバラバラです。そのため除草剤をかけて一斉に枯らして、一斉に収穫しているのです。

Q8. 添加物の表示義務、添加物の不使用表示の規制について詳しく知りたいです。

今後どういったものを手に取るようにすれば良いのでしょうか？

市場にあるものはどう見分けるといいのでしょうか？

記載がないものは購入しないようにするのが一番いいのか…もし調べるとしたら、個人で調べることも可能なのでしょうか？

食品添加物表示では、不使用や無添加表示が使えなくなります。また化学・合成・人工などの文字も禁止されます。そのため消費者は、どれが合成、人工、あるいは化学なのか、知ることが求められます。また不使用・無添加表示がなくなりますので、どのような食品添加物が使われているのか、あるいはまったく使われていないのか、添加物の欄を見て判断するしかありません。

Q9. ゲノム編集された魚はネット販売のみと言われてましたが、100 円寿司や回転寿司などでの取り扱いもないですか？

現在のところはありませぬ。しかし、某回転寿司チェーンだけはゲノム編集技術に積極的にかかわっています。近い将来、取り入れる可能性はあります。企業として、その姿勢に問題がある企業です。

Q 10. ごま油やオリーブオイルなどの食用油は遺伝子組み換えに関しては大丈夫なのでしょうか？

現在、遺伝子組み換え作物で日本に入ってきているのは、トウモロコシ、大豆、ナタネ、綿の4種類だけです。世界的に見ても、この4作物が中心で、ゴマやオリーブでの遺伝子組み換えはありませんので、大丈夫です。

Q 11. 輸入食材なのに(例えば、なめこ等)国内で袋詰めされた物は、国産品として販売されていると聞いたことがあります、そういう事は多々あるのでしょうか？

外国産で袋詰めされたものというだけではだめです。外国産でも国内で一定の期間栽培した場合、国産なり福岡産といった表示ができます。食品表示基準のとても分かり難いところです。以前、中国産アサリが熊本産として販売されていましたが、このような基準があるため起き得るのです。

**Q 12. 表示義務が変わると言う事ですが、NON-GMO や無添加などの表示は、これからもされるのでしょうか？それともしてはいけないと言う規制ですか？
メーカーとしても、無添加であることなどは付加価値になると思うのですが…**

「遺伝子組み換えでない」という表示は消えるわけではありません。0%混入のみということですので、国産しか用いていない食品の場合、残るはずですが、同じ工程で輸入の非組み換えのものを用いている場合、わずかですが遺伝子組み換えが混じっており、それが国産に入ってくる可能性があるため、メーカーは「遺伝子組み換えでない」と表示できないのです。無添加表示は禁止されるため使えなくなります。無添加で頑張っているメーカーにとっては、それがアピールできなくなります。

ただし食品表示での規制は容器包装が対象です。生協の場合、カタログがあります。そこは規制の対象外ですので、グリーンコープではこれまで通り、カタログで「遺伝子組み換えでない」「無添加」を示すことができます。